

ご記入にあたって

- 質問番号順に、あなたの職種に関する項目に限らず、他職種の項目も含めて、全項目についてご回答ください。
- 回答は、あてはまる数字に○を囲んでいただくか、印をつけていただきます。「その他」にあてはまる場合は、あわせて（ ）内に具体的な内容を記入してください。
- 回答はすべて統計的に処理をいたしますので、個人名が出たり、回答内容から個人が特定されたりすることは一切ありません。どうかご安心いただき、ありのままをご回答ください。
- ご記入が終わりましたら、もう一度、記入漏れがないかお確かめください。

2018年10月～2018年12月
 研究責任者：高橋 都
 研究担当者：加藤 明日香
 国立がん研究センターがん対策情報センター
 がんサバイバーシップ支援部
 〒104-0045 東京都中央区築地5-1-1
 Tel: 03-3547-5201(内線1691) Fax: 03-3547-6627

問 1

以下の項目は、医療者によるがん患者さんへの就労支援に対するあなたの考えについて質問しています。各項目を丁寧に読み、「役立たない」から「非常に役立つ」までの4段階で、現在のあなたの考えを最も表している回答番号に○をつけてください。正しい回答というものはありません。

あなたが勤務している病院において、あなたが以下の項目に取り組むことは、がん患者さんが就労継続または職場復帰するために、どの程度役立つと思いますか？

ご自身に該当しない職種の場合にも、あなたの病院で共に働いている他職種のスタッフが取り組むことで、がん患者さんの就労継続または職場復帰に、どの程度役立つと思うかどうかの判断でご回答ください。

1. 役立たない 2. 少し役立つ 3. 役立つ 4. 非常に役立つ

5. わからない

全職種	1	2	3	4	5
「仕事を辞めるかどうかの決断はあとでもできるので、とりあえず今は仕事を辞めないように」と、患者に伝える	1	2	3	4	5
患者の仕事の内容、雇用形態、通勤手段について、患者に尋ねる	1	2	3	4	5
治療と仕事を両立できるような治療スケジュールであるか患者に確認する	1	2	3	4	5
治療によって多大な経済的負担がかかる場合、ソーシャルワーカーや医系系事務職に相談するよう、患者に勧める	1	2	3	4	5
治療によって仕事に支障が出ていないかどうか確認し、対処方法や予防方法について、患者に助言する	1	2	3	4	5
治療終了時の体力の低下や回復状況を考慮して、無理のない復職スケジュールについて、患者に助言する	1	2	3	4	5
患者が就労を続けるために、患者自身が職場からの配慮を得ていく工夫について、患者に助言する	1	2	3	4	5
副作用による外見の変化が生じても、安心して、現在就いている仕事を継続できるよう、患者のケアを行う職種につなぐ	1	2	3	4	5
食欲不振、味覚障害、生活に対する不安などの患者の訴えにより、患者を適切な職種へつなぐ	1	2	3	4	5
患者の機能回復の経過をみながら、作業時間や作業内容など復職に向けての工夫について、患者に助言する	1	2	3	4	5
患者が自身の就労に対する悩みや望んでいることがあれば、医療スタッフに話して欲しいと、患者に伝える	1	2	3	4	5

12	患者が治療と仕事の両立について具体的な助言を主治医から得るために、自身の就労状況を主治医に積極的に伝えるよう、患者に助言する	1	2	3	4	5
13	患者が就労継続または復職をスムーズに進めていくために、自身の職場とも相談をするよう、患者に助言する	1	2	3	4	5
14	患者が身近な成功例を知ることで就労継続に対する自信を持てるよう、患者会やサロンなど就労に関する患者間の積極的な交流を、患者に勧める	1	2	3	4	5
15	「就労支援」を必要としている患者をソーシャルワーカーへつなぐことができるよう、全職員が、「相談支援センター」の場所と提供している「就労支援」内容について学ぶ	1	2	3	4	5
16	患者が就労継続できるよう、活用可能な制度や相談窓口などの資源を紹介する	1	2	3	4	5
17	「就労支援」情報提供ツールとして、「相談支援センター」リーフレットや「治療と仕事両立」カードを、患者に手渡す	1	2	3	4	5
18	「相談支援センター」が提供している院内「就労支援」サービス（社会保険労務士およびハローワークとの連携）について、院内外で、患者に周知する	1	2	3	4	5
19	多職種カンファレンスを活用し、各患者の「生活」および「就労」状況について、各専門職の視点を共有し、気になることを話し合う	1	2	3	4	5
20	日々の臨床の中に「就労支援」を取り込むことができるよう、各専門職における基礎的な実践能力について、人材育成・指導していく	1	2	3	4	5

主治医						
21	確定診断前、主治医は、「検査結果が出るまでは重大な決断はしないように」と、患者に伝える	1	2	3	4	5
22	特に告知時は、主治医は、自分だけでなく、看護師とも話をするよう、患者に勧める	1	2	3	4	5
23	主治医は、患者が治療と仕事を両立できるような治療法を、患者に提案する	1	2	3	4	5
24	治療計画時、主治医は、患者の就労場面に影響しそうな副作用について説明し、薬剤師からも説明を受けるよう、患者に勧める	1	2	3	4	5
25	治療計画時、主治医は、患者の復職がスムーズに進むよう、がんリハビリテーション療法を取り入れる	1	2	3	4	5
26	治療開始後、主治医は、職場から配慮が得られやすくなるよう、職場が知りたい情報を患者に事前確認した上で、診断書を作成する	1	2	3	4	5
27	治療開始後、主治医は、患者と職場とのやりとりがスムーズに進むよう、病状、治療計画、予測される副作用について、文書を用いてわかりやすく、患者に説明する	1	2	3	4	5
28	患者の治療に際して、主治医は、患者の「生活」および「就労」状況に関する情報を、積極的に他職種に尋ね、治療方針の検討に反映する	1	2	3	4	5

看護師						
29	確定診断前、看護師は、「検査日については、職場と相談してから決めても大丈夫です」と、患者に伝える	1	2	3	4	5
30	告知時や治療変更時に、看護師は、患者の「生活」および「就労」状況に関する情報をキャッチするため、診察に同席する	1	2	3	4	5
31	看護師は、「相談支援センター」を紹介するリーフレットを患者に手渡し、院内に「就労支援」が得られる相談窓口があることを患者に伝える	1	2	3	4	5
32	「苦痛のスクリーニング」シートなどを活用して、看護師は、「就労支援」を必要としている患者の状況を把握する	1	2	3	4	5
33	看護師は、日々のケアの中で、「仕事を続ける上で、何かお困りごとはありませんか？」と、患者に声がけをし、「就労支援」を必要としている患者の状況を把握する	1	2	3	4	5
34	看護師は、「就労支援」を必要としている患者を、必要な他職種へつなぐ	1	2	3	4	5

薬剤師						
35	薬剤師は、加療中であっても「患者は仕事を続けることができる」という前提で、患者に服薬指導をする	1	2	3	4	5
36	薬剤師は、「このような副作用が起きるかもしれないけれども、お仕事に影響が出そうでしょうか」と、患者に尋ねる	1	2	3	4	5
37	薬剤師は、副作用の症状を緩和する薬を、主治医に提案する	1	2	3	4	5

栄養士						
38	栄養士は、各患者の「生活」および「就労」状況や治療による副作用に合わせて、食事の摂り方の工夫（補食、間食、水分、種類、時間設定など）について、患者に提案する	1	2	3	4	5
39	栄養士は、外食や宴会など社交場面においても適切な食事選択（食材、料理、作り置き弁当、アルコールの注意点など）ができるよう、患者に助言する	1	2	3	4	5
40	栄養士は、氾濫する情報の中から食事に関する適切な情報を選択をし、患者の周辺環境に合わせた社会資源を有効活用できるよう、患者に助言する	1	2	3	4	5

理学療法士・作業療法士						
41	理学療法士・作業療法士は、職場での患者の実際の身体の動かし方や作業を想定して、理学・作業療法の観点から、リハビリ計画を立てる	1	2	3	4	5
42	理学療法士・作業療法士は、電子カルテに記録するとともに、主治医に口頭でも伝える	1	2	3	4	5

問2 ご自身のことについてお伺いします。

① 医療機関の種類	<input type="checkbox"/> 大学病院 <input type="checkbox"/> がん専門病院 <input type="checkbox"/> 一般病院 <input type="checkbox"/> その他 ()	
② ①での勤務年数	年	か月
③ 主な担当診療科・部署・センター名		
④ 担当部署	<input type="checkbox"/> 外来 <input type="checkbox"/> 病棟 <input type="checkbox"/> 外来と病棟の両方 <input type="checkbox"/> その他 () <input type="checkbox"/> 相談員 <input type="checkbox"/> 医事系事務職 <input type="checkbox"/> 医師(専門:) <input type="checkbox"/> 看護師(認定:) <input type="checkbox"/> 薬剤師 <input type="checkbox"/> 栄養士 <input type="checkbox"/> 理学療法士 <input type="checkbox"/> 作業療法士 <input type="checkbox"/> ソーシャルワーカー <input type="checkbox"/> 臨床心理士 <input type="checkbox"/> その他 ()	
⑤ 職種 (複数回答可)		
⑥ 勤務形態	<input type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤 <input type="checkbox"/> その他 () <input type="checkbox"/> 男性 <input type="checkbox"/> 女性	
⑦ 性別		
⑧ 年代	<input type="checkbox"/> 10代 <input type="checkbox"/> 20代 <input type="checkbox"/> 30代 <input type="checkbox"/> 40代 <input type="checkbox"/> 50代 <input type="checkbox"/> 60代 <input type="checkbox"/> 70代以上	

以下の設問⑩～⑫は、がん患者さんの実人数でご回答ください。

⑩	過去1か月間において、あなたは、何名のがん患者さんの診療・ケア・サポートに携わりましたか？	名/月
⑪	⑩のうち、何名のがん患者さんが就労世代 (20～64歳) でしたか？	名/月
⑫	⑩のうち、何名のがん患者さんに対して、あなたは、上記 (問1の項目) のアクションをされましたか？ ※一人の患者さんに対して、問1の全50項目のうちいずれかが1項目でもアクションされていれば、1名と数えてください。 ※問1であなたがどのように回答したかについては問いません。あなたが「役立たない」と回答した項目も含めて、アクションされていた場合には1名と数えてください。	名/月

質問は以上です。ご協力いただきありがとうございます。ありがとうございました。

ソーシャルワーカー

43	ソーシャルワーカーは、患者の悩みや不安を傾聴し、患者の中で漠然とした相談内容を整理し、明確にする	1	2	3	4	5
44	ソーシャルワーカーは、就労に関して悩みや不安を持った患者を、相談内容に添って、適切な社会資源 (社会保険労務士やハローワークなど) につなぐ	1	2	3	4	5
45	ソーシャルワーカーは、多職種から相談支援センターへの患者紹介を促すために、院内の勉強会などで、「就労」に関する患者の困りごとや支援ニーズの事例について、多職種に説明する	1	2	3	4	5

医事系事務職など (ソーシャルワーカーも含む)

46	医事系事務職は、いつ、どのような医療費・生活費 (休職中や退職後) などの助成申請が可能であるか、「就労支援」を必要としている患者に情報提供する	1	2	3	4	5
47	医事系事務職は、支払いの相談に来た患者に対して、「仕事について悩みや不安に思っていることはありませんか？」と、患者に声をかけをし、必要な他職種へつなぐ	1	2	3	4	5

施設全般

48	「就労支援」に関する院内フロー (誰がどの時点で何をして、誰につなげるかの流れ図) を作成し、それを全職員で共有するしくみを作る	1	2	3	4	5
49	診断書など、主治医と職場の情報共有を目的とした文書作成を支援するしくみを作る	1	2	3	4	5
50	患者にとっても安心してが得られる、憩いの場所となるよう病院全体の環境づくりの工夫をする	1	2	3	4	5

次のページ (問2) もご回答をお願いします。